

○4番(南部 豊君) おはようございます。

12月定例会、トップバッターの南部豊でございます。

平成26年も残すところ20日余りとなりました。

今、国政では皆さまもご存じのように、解散による衆議院議員選挙真ただ中でありま
す。選挙経費400億円強とも言われ、なぜ今なのか、疑問に思うのは私だけでしょうか。
12月14日投票、翌日には大勢が決し、国民の審判が待たれるところでもあります。

それでは質問に入らせていただきます。明解なる答弁をお願いしたいと思います。

私は今定例会、通告書に従いまして2項目の質問をさせていただきます。

1項目めは将来に向けてのまちづくり政策について、2項目めは喜び農業推進事業の
進捗状況についてであります。

1項目めのまちづくり政策についてお伺いします。

日本国はこれから先、急激に少子高齢化が進み、総人口は大幅に減少することが見込
まれています。私ども東員町の人口もここ数年減少傾向にあり、町財政にも大きな影響を
もたらすことが懸念されています。

しかし東員町は災害の少ない町として、近隣市町からも高く関心を持たれ、安全・安心、
子育てに優しく高齢者に住みやすい夢あるまちづくりがさらに期待されているところでもあ
ります。

財政的な問題や課題もたくさんあり、町としてやらなければならない政策はたくさんある
と思いますが、その中で最も実施しなければならない政策、町長が最重要と考え、今すぐ
やらなければならない政策とは何か、2政策に絞ってお伺いします。

2番目に、第2次旧員弁郡定住自立圏共生ビジョン、5カ年計画の結果と課題について、
どのように取り組まれるのかお伺いします。

3点目に、他市町から東員町に来町してもらえる目玉になるような複合施設の誘致や宿
泊施設も必要と思います。町長はどのようなお考えか、お伺いします。

よろしく願いいたします。

○議長(木村 宗朝君) 水谷俊郎町長。

○町長(水谷 俊郎君) おはようございます。

よろしく願いを申し上げます。

では将来に向けてのまちづくり政策についてのご質問でございますが、まず1点目の最
も重要と考え、すぐにやらなければならないと思う政策を2つに絞って、ということでござい
ますので、お答えをさせていただきたいと思います。

まず1つ目は、町民参画のまちづくりでございます。

ご案内のように日本は人口減少期に入り、また、市民ニーズも多様化しておりまして、今
までの行政と住民との関係を見直し、再構築しなければならない時期に来ていると考えて
います。

まずは行政の今までやってきた事業を精査し、本当に行政がやらなければならない事業以外の事業は、それにふさわしい担い手に移行していくことが求められていると思っております。その担い手としての町民とは公益団体であり、企業であり、そして市民活動団体であります。行政がやるよりもはるかに効率がよく、効果的で住民ニーズにかなっている事業を担っていただいている市民活動団体は、行政のまちづくりパートナーとして貴重な存在であり、行政としましては、地域ニーズに対する役割分担を確認しながら支援していかねばならないと考えています。

こうした町民参画のまちづくりを進めていく上で、その拠点となる市民活動支援センターの役割は大変重要であり、早急に整備する必要があると考えております。

本町でのこうした市民活動は、現在多くの町民の皆さまが積極的に取り組んでいただいております。町内各地域でご活躍いただいておりますが、行政との協働というところでは行政側の意識がまだ追いついておりません。なかなか進んでいないというのが現状です。

もう一つは、人にやさしい地域づくりです。

今、日本では高齢化と同時に核家族化が急速に進んでおりまして、高齢者の介護や医療ケアが大きな社会問題になっています。

病院や施設は慢性的な飽和状態にあり、待機者の解消が問題になっています。日本政府の財政状況を冷静に眺めれば、これ以上の施設整備は難しく、これからは在宅ケアを進める以外、これといった切り札を見つけることは困難だと考えております。

本町も急速な高齢化に対応し、高齢者の皆さまの不安を払拭するために在宅医療、在宅看護、在宅介護の拠点整備を含め、検討してまいりたいと考えています。

また、障がい者が自立した生活を送れる環境づくりとして、生活するための十分な労働対価が得られるような働く場所の確保を、企業とともに検討していかねばなりません。

また、昨年度から設置しております発達支援室のニーズが大変大きくなってきていることから、町民の皆さまの利便性、使いやすさを考えたとき、一刻も早く拠点整備をしなければなりませんと考えています。

次に、2点目の第2次旧員弁郡定住自立圏共生ビジョンについてでございますが、第1次旧員弁郡定住自立圏共生ビジョンの目標年次が平成27年3月末となっております。圏域内の目標人口をおおむね7万2,000人と掲げております。今はまだ第1次の計画期間内でございますが、平成26年3月末での圏域内の人口は7万1,884人で、計画策定時の7万2,512人と比較しますと0.87%減となっており、目標からは若干下回っておりますものの、成果はまだ先のことと考えております。

このような状況を踏まえ、第2次共生ビジョンでは、子育て世代の定住促進や超高齢化社会に向けた施策を優先することとし、主な事業として「在宅医療と介護の連携」「指定区域内の住宅開発の周知・相談」、「喜び農業」、「観光によるまちづくり」など、23の事業を追加し、平成27年度から事業展開をしてまいります。

3点目の複合施設等のご質問でございますが、東員町の将来を見通したとき、今後本町に必要と考えるものは在宅ケアの拠点や高齢者の憩いの場、子どもが健やかに育つための拠点、町民の皆さまが自主的な活動のできる場などと考えておりました、町の将来を考えますと、本町の身の丈に合った取り組みが肝要ではないかと考えております。

町民が暮らしやすい、そして住んでよかったと思ってもらえるまちづくりを進める中で、東員町に魅力を感じ、集客に資する施設を民間で整備していただけるのであれば、ありがたいことだと考えております。

以上でございます。

○議長(木村 宗朝君) 南部議員。

○4番(南部 豊君) ありがとうございます。

2政策お伺いしました。

町長が今おっしゃられたこと、町民参画のまちづくり、人にやさしい地域づくり、東員町のまちづくり政策の中で非常に重要な政策であることは、私も重々理解しておるつもりであります。

しかし私は9月の定例会でも、町の財政政策について質問をさせていただきました。ここ数年は良好に推移するが、その先は大変厳しい財政状況になるという答弁をいただきました。覚えておみえであると思いますが、そういったことから考えますと、特に2番目にお答えいただきました在宅医療、在宅看護、在宅介護、こういった重要性、私も理解はしておるつもりです。しかし、このようなものを進めていくにも、する側もされる側も相当な精神的・金銭的な負担になると思います。私は介護予防施策にもっと力を入れるべきだと思います。

私は町長のお考えの1番目に財政政策とのお答えがあると思っていましたが、再度お聞きしたいと思います。どんないい政策をやろうとしましても、必ず財源が必要だと私は考えます。どこに財源を求めるか、企業誘致もその一つであるかと思いますが、町長のお考えの中にそういったお金を稼ぐという言葉は悪いんですが、どこかでそういった手当ををしなくてはならないと私は思っています。その点について、町長のお考えはどのようなことをお考えでしょうか。

○議長(木村 宗朝君) 水谷町長。

○町長(水谷 俊郎君) 財政の問題は、いろんな政策を進めていく上で最も基本なことでございますので、これは政策というより、どうしてもやらなければならないということだと考えております。

その中で企業誘致等のお話もありましたが、東員町というのは、議員もご承知のように一小さな町でございます、面積的に今余裕のある土地というのはなかなか少ないという現状もございまして、大きな企業誘致を進めるといことは不可能でございます。

そんな中で私は、物、お金がこの東員町内で回る仕組み、これをつくっていかねばいけないというふうに思っております。

いろいろな制約がございまして、なかなかうまく進んでいないということはありますけれども、限られた予算の中で町の財政をどんどん増やしていくということは、なかなか難しいというふうに考えておりますので、限られたお金を町内で回す、そして物も回す、そういうことで大変裕福というわけではないのですが、町内でそれなりに幸福感を実感できる、そんなまちづくりがこれから求められるのではないかなというふうに思っております。

○議長(木村 宗朝君) 南部議員。

○4番(南部 豊君) ありがとうございます。

今、町長のご答弁の中にもお金、町内でいろんな物も回す、そういった仕組みをつくるのが必要だ、金・物、全て回るようなことになれば非常にいいかなと私も思います。

こういった国の政策、今後ますます交付金や補助金というものは減少されていきます。行政と会社経営は違うと言われますけれども、私は会社会的な経営感覚も必要であると思います。特に医療事業に関しては、高齢化が進むことにより、そういった財政を圧迫するようなお金がたくさん必要になってくると思います。そのために、また各種団体や元気サロン、老人会事業の積極参加による、皆さまがそういうところに参加して体を動かしていただく、そしてそんなようなことが予防事業ということにつながると思います。予防効果を期待することによる保険医療費などの抑制にも目を向けた持続性のある政策を期待したいと思えます。

続きまして2点目の員弁郡定住自立圏共生ビジョンについてお伺いします。

この質問の答弁については町長、担当部長、どちらでも結構でございます。先ほど町長から答弁をいただきました、これは平成22年度から5カ年をかけ第1次として、現在第2次として進んでいる政策でございましょうか、お答えください。

○議長(木村 宗朝君) 早川正総務部長。

○総務部長(早川 正君) お答えをさせていただきます。

旧員弁郡定住自立圏につきましては、平成22年度から実施をさせていただいておまして、現在取り組みとしましては、まだ1次の途中でございます。平成27年度から第2期という形に入っております。

○議長(木村 宗朝君) 南部議員。

○4番(南部 豊君) この定住自立圏共生ビジョン、たくさんいろんなことが書いてあります。この資料をちょっと読ませていただきまして、全体的に感じたことでお伺いしたいと思います。

部長は当然この資料は既に熟読されておみえになっていると思いますが、どの程度の完成度とお考えでしょうか。何パーセントで結構です。

○議長(木村 宗朝君) 早川総務部長。

○総務部長(早川 正君) お答えをさせていただきます。

員弁郡定住自立圏構想につきましては、いなべ市が中心市、私どもが周辺市という形で圏域をつくりまして、当町、もともと員弁郡という枠組みの中で連携をしておりましたので、

この連携を強化しつつ、これからの少子高齢化、そういった部分の社会に向けて人口減少を食い止めながら、圏域として頑張っていこうという施策でございます。

この2次の共生ビジョンにつきましては、これから平成27年度から5カ年、こういう計画をしたいというところでございます、それと1次につきましては、つくらせていただいたのは、もともと員弁郡として、東員町といなべ市がそれぞれ連携をしながら実施をさせていただいておりました事業をビジョンとして掲げておりましたので、推進率としては、パーセント、これはもう私見ですけれども90%ぐらいはいつているというふうに思っております。

○議長(木村 宗朝君) 南部議員。

○4番(南部 豊君) 私の質問の仕方も悪かったと思いますけども、私は作成された資料の中身の内容は、今からいろいろやられることかと思っておりますけども、資料を作成した完成度はどうだというような気持ちでお聞きしたんですが、この資料の作成には四日市大学の副学長、岩崎先生を座長に、そうそうたる有識者の皆さんや地域の皆さんの参加で検討と議論をされた中で行政の皆さんでまとめられた資料と伺いましたが、いかがですか。

○議長(木村 宗朝君) 早川総務部長。

○総務部長(早川 正君) お答えをさせていただきます。

議員おっしゃられますとおり、四日市大学の岩崎教授が座長となりまして、いなべ市、それから東員町の地域の代表の方が懇談会の委員として、それと私も職員もオブザーバーという形で参画をさせていただきながら、一緒になってビジョン作成に当たっております。

以上でございます。

○議長(木村 宗朝君) 南部議員。

○4番(南部 豊君) ありがとうございます。

統計的な数字や現状の説明、非常に苦勞されているところであると思っておりますけども、私これちょっと読ませていただきますと、少し難しく感じました。行政用語的なものも多く入ってまして、一般的な方が読まれると、ちょっと難しいかなという気がしたわけですが、旧員弁郡定住自立圏共生ビジョン、多岐にわたり議論がなされています。いなべ市さんと連携する中での根幹にかかわる取り組みであると思っております。

少子高齢化が進行する中、三大都市圏への人口流出を食い止め、地方においても安心して暮らせる魅力ある圏域を形成していくことが、このビジョンの目的ということで記載されています。少子化対策として、いなべ市さんは東員町にない何か政策をお持ちなのか、お伺いしたいと思います。

○議長(木村 宗朝君) 早川総務部長。

○総務部長(早川 正君) お答えをさせていただきます。

少子化対策でいなべ市さんが特段私どもより変わっているというところは、なかなか思いつかないところがございますけれども、今回のビジョンの中で、いなべ市さんが独自で

出されているのは、例えばいなべブランド発信事業であるとか、グリーンツーリズム推進事業といったものが、東員町にないような事業で出されているのがございます。

○議長(木村 宗朝君) 南部議員。

○4番(南部 豊君) この中にもビジョンの目的の中に、いわゆる少子高齢化が進む、それについての具体的な政策なんかも少し書かれているのかなと思ったんですが、それについては今、部長おっしゃるとおり何も書かれていないんですよね。

私、今どこの地方においても、少子高齢化問題というのは非常に重要視すべき問題と考えていますが、先ほど町長の答弁にもありましたが、人口問題、そして若者定住促進、それから少子化問題というのはセットで考えて対処すべき問題だと思いますが、いかがでしょうか。

○議長(木村 宗朝君) 早川総務部長。

○総務部長(早川 正君) お答えをさせていただきます。

議員おっしゃられるように、子育ての部分であるとか定住の部分、そういったものは全て本当にセットで考える必要もあると思いますし、これを行うことによって町の財政の基盤が安定するということにもつながってますので、町長の施策の中でも、先ほど2つに絞られておりますけれども、子育ての部分であるとか、定住については、本当に重要施策というふうに考えておりますし、先ほど町長が答弁されました1つ目の部分で市民参画という部分も、こちらは本当に行政の部分もスリムにさせていただくということも財政の部分で重要なことになってきますので、そういった部分は全て連携をするものであるというふうには考えております。

○議長(木村 宗朝君) 南部議員。

○4番(南部 豊君) ありがとうございます。

東員町もご承知のように以前、出生祝金や入学祝金、若者定住促進奨励金など、他市町にはない進んだ政策がありました。関係する町民の方々には大変喜んでいただいた政策であったと思います。

しかしこれがなくなった今、私はいなべ市さんと連携する中で、なくしてしまったものは仕方ありませんから、これは素直にお認めいただいて、こういったものに対して非常に支持があったわけですが、間違っていたのかなというところも少しお考えいただきたい。連携する中で復活すべき政策もあるのではないかというふうに考えています。

ハード面よりソフト面ということをおっしゃられますが、なかなか定住促進奨励金については60%以上の方が非常に評価してみえて、喜ばれた政策だと思っておりますが、この点について、もとに戻すというようなお考えはございませんでしょうか。

○議長(木村 宗朝君) 水谷町長。

○町長(水谷 俊郎君) 定住促進事業があるから東員町へ定住を決めたという皆さんは割と少ないのですね。東員町は子育てが進んでいるとか、いろいろな理由で東員町へ来ていただくという方が増えています。

現にこの定住促進事業がなくなってからも入ってきていただいているという事実もございますし、このお金については5歳児の幼稚園・保育園の無料化、あるいは保育園保育料の5,000円割引ということもありますし、例えば私よくこういった問題を町村会の中、ほかの町長さん方とお話をするんですが、ほかの町の保育園・幼稚園なんかの正規職員の雇用率の目標が約50%なんです。東員町は70%を目指すということで、正規の職員による子どもたちに安心して、そして安定的に子育てをしていただくということなどに力を入れていく、そういうことのほうが子どもたちにとっていいだろうということで今進めておりますので、効果としては、私はこちらのほうが大きいというふうに思っております。

○議長(木村 宗朝君) 南部議員。

○4番(南部 豊君) 若者定住促進条例、奨励金については、これをまた今ここで議論をしていますと、3歳・4歳・5歳という保育料の無料化がセットであったと私は思っておりますので、それが満身に達成されていない今、これをまたここで議論をし出すと時間がとうてい足りませんので、機会がある時にお聞きしたいと思いますが、私は今、町長言われることは立派なことで非常にいいとは思いますが、支持されていた政策に関しては継続すると。どこの市町でもいい政策は継続するというので取り組みもなされているところもまだまだたくさんありますので、よい政策をもとに戻すということは決して悪いことではないと私も考えておりますので、もう一度また進めていただけたらなということをお願いしたいと思っております。

それはまた、町長、議論をしていきたいと思いますが、私も持ち時間がありますので、町長のおっしゃりたいことも大体わかっていますので、これはまた次回、お聞きしたいと思います。

続きましてコミュニティバス事業について、お伺いしたいと思います。

昨年ですが、コミバスのパブリックコメントの募集なんかがありまして、47件のご意見をいただいたとお聞きしております。その中には町民の皆さんのコミバスの運用について不安を持たれたご意見も少なくありませんでした。今年10月1日に、より新しく運行されたコミュニティバス、新路線になって非常に不便になったというお声もお聞きしております。そのようなお声は届いてないですか。

○議長(木村 宗朝君) 早川総務部長。

○総務部長(早川 正君) お答えをさせていただきます。

コミュニティバスにつきましては、旧来の路線から皆さんのご意見等を賜りながら、この10月からルートを改正させていただいております。議員おっしゃられますように、この10月から改正をさせていただいて、確かに使いにくくなったというお声も聞いております。その一方、今まで通らなかったけれども通るようになって便利になった、というお声もいただいております。まだ1カ月ちょっとということもございますが、いろいろ分析をしておりますし、皆さまのお声をいただいているところですが、確かに10月から、昨年同月と比べま

すと、約1割ほど乗客が落ちておりますけれども、これが一過性のものなのか、もう少し分析をする必要があるというふうに考えております。

○議長(木村 宗朝君) 南部議員。

○4番(南部 豊君) こういった意見というのは、全ての方たちに対応できるようなことは、当然これ不可能だと、皆さんもおわかりいただいておりますが、私、先日、ある方と一緒にバス停で時刻表を見てみました。慣れれば別ですが、非常に理解するのに時間がかかったわけですが、どちらに進んでいくのかな、大きな路線に対しては矢印も書いてあって、ああこうやって回っていくんだなというようなこともございましたし、ちょっとわかりにくいのかなという気がしたわけですが。

しかも今、私どもでも2時間に1本になってしまって、4本のバスの運行しかなかったんですが、非常に数が少なくなったということもありますし、平成22年から平成25年までにどの程度の収入と支出があったのか、少しお教えてください

○議長(木村 宗朝君) 早川総務部長。

○総務部長(早川 正君) お答えをさせていただきます。

まず運賃収入につきましては、平成22年度から平成24年度まで、約800万円ほど収入としてございました。

平成25年度につきましては、少しいオン効果等もございまして伸びておりまして、980万円ほどの収入がございました。

また、運行にかかる経費につきましては、平成22年度からで申しますと、年間4,830万円の運行委託料及び車両の修繕料にプラス400万円ほどかかっておりまして、およそ各年度5,200万円から5,400万円程度で推移をしております。

以上でございます。

○議長(木村 宗朝君) 南部議員。

○4番(南部 豊君) 私もこの件に関しては、パブコメの中で申しましたが、考え方はいろいろあると思います。私、一つ提案させていただいたのが、民間の車両委託業務事業というもので、1台当たり450万円とか500万円ぐらいで委託が可能になってますね。今、5,400万円ということから考えますと、この予算内で11台ぐらいの小型のハイエースみたいな10人乗りのバスなんかを使用することができないかというふうに考えている一人なんです。しかも運転手さんなんかは町内の方を雇用できるようなことも考えてまして、雇用増につながる、こういったものの研究されるテーブルに、こういったことを上げることはできませんか。

○議長(木村 宗朝君) 早川総務部長。

○総務部長(早川 正君) お答えをさせていただきます。

バスを小型化にというお話でございますけれども、現在のバスにつきましても、年数がかなりたっております。当然更新時期というのがやってまいります。その際に、今後、現在のルートにつきましても、絶えず見直し等もかけていく必要もございまして、バスについて

も今のバスでいいのかということは、当然議論の中で検討する必要もございます。議員おっしゃられるように小型化をして、例えばもう少し詳細なルートにということも、検討の中には入るのかなというふうには思いますけれども、先ほど申し上げました年間約5,000万円というのは、ほとんど人件費にかかる部分でございまして委託料でございまして、バスは当初に、コミュニティバス導入の時に町のほうで購入をしておりますので、そのあたりはご理解をいただきたいというふうに思います。

○議長(木村 宗朝君) 南部議員。

○4番(南部 豊君) ありがとうございます。

福祉目的のバス事業だと思いますけども、経費がかかるのは当然であります、と私は思っています。利用される人たちや車に乗れない高齢者の方たちの足になっているコミュニティバス、国の規制もいろいろあると思いますが、少しでも皆さまの意見や状況をお考えいただきながら、改善できるところからぜひ取り組んでいただきたいというふうに思います。

続きまして、3点目の質問に移らせていただきます。

他市町から東員町へ来町してもらえる目玉となるような施設や誘致、宿泊施設も必要と思います。これは町長にお聞きしたいと思います。

東員町には季節もさることながら、1年中を通して、こんな施設がありますと言えるような目玉になるような施設はどのようなものがありますか、お伺いします。

○議長(木村 宗朝君) 水谷町長。

○町長(水谷 俊郎君) 多分、中部公園はそうだろうというふうに思っております。「ワイヤーママ」でしたか、2年連続三重県で一番の公園になったということがあって、来場者は相変わらずたくさん来ていただいているというふうに思っております。

また、文化センターのひばりホールなんかは非常に稼働率が高い、このあたりではトップクラスの稼働率を誇っているというふうに思っておりますし、図書館なんかも非常に東員町の図書館は稼働率が高いというふうに聞いておまして、こういう文化施設なども来ていただく方はたくさんおみえになると思っております。

○議長(木村 宗朝君) 南部議員。

○4番(南部 豊君) 先ほども町長からの答弁をいただいた中で、民間の活力が投資していただけることによって、非常にそういったことになればいいかなというようなお答えもありましたが、東員町として土地は東員町が提供しますよ、建物建設は民間さんにお願いますよというようなことも私はあるかと思えます。今後そういったことについても検討をしていかなければならないと思っております。

私ちょっと今、町長が言われた中部公園だとか文化センターというもの、確かにそれもあるわけですが、中部公園なんかは特に冬場になると非常に来町者も少なくなってしまうので、できるできないは別として、複合施設の建設の誘致とか、町でやれというのは確かに難しいかもしれませんが、これは私一人の個人的な意見でございまして、聞いておいてくださいね。

今、私は複合施設と申し上げたのは、若い方たちや女性や中高年に非常に人気のあるスポーツジムですね、それと1年中通して使える温水プール、これは少し改造してもらって箱ものにした室内プールですね。そういったものにできればいいかなと。スーパー銭湯とまでは言わないまでも、日帰り温泉施設とか、町内でとれた野菜や果物、パンなんかの販売所ですね。

それと少しおもしろいかなと思うのは、こういったところにお越しいただく中で障がい者の方、車いすにお乗りの方たちが、そういう施設に行っておみえの方はいいんですが、行かれてない方たちの、東員町でそういう施設ができた時に時間預かり施設みたいな、例えば半日間預けて、その時間、家族の心のケアとかリフォーム的なことができるような施設、これ言い出したら切りがないのですが、そんなようなものができたら本当にすばらしいなと思ってますし、いろいろなアイデアは町民の皆さんもお持ちだと思いますね。こういったようなことを少し考えておまして、機会があれば、またそういったようなことも議論していきたいなというふうに思っています。

東員町のまちづくりには、町職員の若手で構成されたプロジェクトチームもございまして、24の方が参加されてますし、まちづくり町民会議、これは16人の委員さんで構成されてますね。話し合いや検討がされていると思います。

ここで少し東員町の未来、まちづくりを考えるのであれば、ぜひもう一つ枠を広げていただいて、中学生や高校生、またある程度年代別に、そういった方たちに東員町の将来に向けた、こうあってほしいとか、こうあるべきだというような意見を求められてはいかがでしょうか。これについてはどうお考えでしょうか。

○議長(木村 宗朝君) 水谷町長。

○町長(水谷 俊郎君) なかなかいいご意見だと思いますので、参考にさせていただきます。

○議長(木村 宗朝君) 南部議員。

○4番(南部 豊君) ありがとうございます。参考にさせていただけるというご意見をいただきましたので、1項目めの質問は終わらせていただきます。

2項目めの質問、喜び農業推進事業の進捗状況についてお伺いします。

栽培作物のブランド化などを、付加価値のある稼ぐことのできる農業を目指し、持続可能な農業形態の確立を目的に進められている事業ですが、本当にブルーベリーやぶどうが東員町にとってブランド化や付加価値があり、稼ぐことのできる作物にするという、今回ご提案がされていますが、この事業に取り組まれる部長の決意みたいなものをお聞かせ願いたいと思います。

後先して申しわけございません。まず部長に答弁をいただいてからでしたね、これは。よろしく願います。

○議長(木村 宗朝君) 山下誠司建設部長。

○建設部長(山下 誠司君) ちょっと順序が後先しましたが、お答えいたします。

通告のほうでは喜び農業推進の進捗状況ということでございましたので、お答えをさせていただきたいと思います。

喜び農業推進事業は、国の農業施策だけに頼るのではなく、真に自立した農業経営や農業の活性化を図ることを目的として農業を収益産業と位置づけ、生産、販売のみならず、将来的には6次産業化も目指し、本町の特産品として開発できる作物を選定して、町独自の事業として推進するものでございます。

本年度は特産品として栽培する果樹(ぶどう・ブルーベリー)の実証ほ場を設置するための予算、458万9,000円を計上させていただいております。

現在の進捗状況でございますが、実証ほ場を行う用地の賃貸契約を10月に締結してございます。そしてぶどう・ブルーベリーの栽培に係るほ場の整備が既に完了しまして、現在ブルーベリー液肥栽培システムの設置工事を行っているところでございます。

苗木の植えつけにつきましては11月から2月末が最適期ということでございまして、12月中、今月中に植えつけ作業を行う予定でございます。

今後につきましては、植えつけた苗木が良好な状態で生育するように、ほ場の管理に努め、実証ほ場の成果を示し、新たに参画していただける農業者の発掘を行うとともに、新しい町の魅力づくりにつなげてまいりたいと考えておりますので、よろしくご理解賜りますようお願いを申し上げます。

○議長(木村 宗朝君) 南部議員。

○4番(南部 豊君) トップバッターということで少し緊張していたのかなということで、大変失礼いたしました。後先しました。

また、質問を続けさせていただきます。

今、部長からも答弁をいただきましたが、今までいろいろな取り組みをされているわけですが、短期間でいろいろ品目も変わっているわけですが、それについてはまた後ほどお聞きするとして、今回480万円の予算を組んで取り組むわけですが、それについてもう一度、決意を少し述べてください。お願いします。

○議長(木村 宗朝君) 山下建設部長。

○建設部長(山下 誠司君) 基本的に現在の立ち位置が実証ということでございまして、先ほども申し上げましたように、最終的には6次産業化も目指していくということでございますので、その気持ちには変わりはありませんので、まずは小規模でありますけども、これからやろうとすることを確実に定着させた上で、さらに発展させていきたいと、そういうふう考えておりますのでお願いいたします。

○議長(木村 宗朝君) 南部議員。

○4番(南部 豊君) ありがとうございます。

部長の決意というものもお聞かせ願いましたが、この12月中に作付けが行われるということで、現在何も形としては見えてない状態なんですよ。将来ですけども、どの程度の

収入、これによってぶどう、ブルーベリー、とりあえずこれをお聞きしたいと思います。どの程度の収入を見込んでおみえになるのか、お願いします。

○議長(木村 宗朝君) 山下誠司建設部長。

○建設部長(山下 誠司君) あくまでも10アール当たりということで試算をさせていただいておりますが、ブルーベリーにつきましては100本の苗木を植えておまして、5年先を目途にしておりますが、その時点で136万円ほどの収益を見込んでおります。ぶどうにつきましては50本を植えて、これも5年先ですが、180万円ほどを見込んでおります。あくまでもランニングコストは、この中には含まれておりませんので、実際の売上高と言いますか、それで計算をさせていただいております。

以上です。

○議長(木村 宗朝君) 南部議員。

○4番(南部 豊君) 本当にすばらしいですね。10アール当たり180万円、ぶどうですね。ブルーベリーが130万円強、これがもし本当にできたらすごいことだと私は思いますよ。こういった農家さんの本当にこれは強力な売り上げになると思いますので、ぜひ前向きに前進して力強く取り組んでいただきたいと思います。

農業の活性化と町内で関係する農業人口ということで、こういったものの作付けに参加していただく方を見込んでおみえになるかと思いますが、何人ぐらい、何件ぐらいを目標にしておみえでしょうか。

○議長(木村 宗朝君) 山下建設部長。

○建設部長(山下 誠司君) 実証に関しましては、現在ぶどうを経営なさっている方がお二人おいでになりまして、その方々にも今回お手伝いをいたどうかというふうなことで思っております、さらにそれ以上の方に参画を願いたいというふうな思いはございます。ただ、今現時点で何人ぐらいというのは申し上げにくいんですけども、より多くの方に参画いただければというふうに思っております。

○議長(木村 宗朝君) 南部議員。

○4番(南部 豊君) 過去に検証作物として取り組んだものの中で、あした葉、赤しそ、そば、いちじく、そういったものがいずれも成果が見えずに失敗に終わっていますね。先ほども部長、少し決意についてもお述べいただきましたものですから、ひとつ期待をしたいと思いますが、農作物というのは天候や気候に相当左右されて難しく、問題もたくさんあります。

私は1つ、地元で立派な野菜をおつくりになってみえる農家さんはたくさんおみえになりますよね、そういった方たちのお力をおかりするというのも私は必要だと思います。その中でも有機野菜、前回も先生がいなかったからやめたというようなことでありましたが、品質を高めながら量を確保することによって東員町の特産品やブランド化を見出すことも私は可能ではないかなということを考えています。

先ほども部長にお聞きしましたブルーベリーやぶどうが東員町の付加価値を見出すブランド品になりますことを見守りつつ、私の12月定例会一般質問を終わらせていただきましたと思います。

どうもありがとうございました。